

会員数	94,353	(前月比) +	183
手配り	27,627	(前月比) -	1,027
郵送	9,218	(前月比) -	2
会員世帯数	41,199	(10/31現在) [前月比 52増]	
協同基金到達額	2,439,328,000円	(10/31現在) [前月比 4,518,000減]	
協同基金出資者数	22,891名	(10/31現在)	



発行  
健康友の会 みみはら  
民医連  
本部事務局組織部  
機関紙編集委員会  
〒590-0821  
堺市堺区大仙西町6丁184-2  
Tel.072-244-8061  
Fax.072-244-7860  
1部30円



田楽座



1300名の参加で大成功



岩本三千代&天然デンネンズ



江戸会長

# 50周年に向けて 地域一丸で頑張ろう！

伊那市を拠点に全国で活躍している民芸集団「田楽座」の舞台です。鳥刺し舞や玉すだねなど、日本の伝統的な祭りや民芸を基にしたオリジナルの舞台でその迫力には来場者の多くが感動したとの感想が寄せられました。獅子舞の演目では「疫病退散」「無病息災」の願いを込め会場を練り歩いてくれました。

懐かしい顔も登場した友の会40周年の歩みのビデオ上映や、森専務からの「みみはら2030年の樹」を中心とした今後の事業展開の説明などを経て、最後の企画は友の会会員さんによるコーラスです。7月の暑いときから練習を開始し、7回の練習を重ねて、参加者もどんどん増え、総勢85名が「みみはらの歌」「もみじ」「ふるさと」をみごとに歌い上げ大きな拍手がわきました。

**お忘れ物に関するお知らせ**  
11月9日(土)に開催した「健康友の会みみはら40周年記念のつどい」での、忘れ物・落とし物を組織部にて預かっております。持ち主様より連絡がない場合、12月27日に処分させていただきます。お心当たりの方は友の会事務局(☎072-244-8061)までご連絡お願い致します。

参加された方には記念のオリジナルサコッシュも配布され、大いに盛り上がった友の会40周年のつどいでした。



会員さんによるコーラス

11月9日(土)フエニーチェ堺 大ホールにて「健康友の会みみはら40周年記念のつどい」が開催されました。  
当日は天気にも恵まれ、開場1時間以上前から並ばれる参加者もあり、最終的には1300名を超える参加者で大ホールがいっぱいになりました。  
オープニングは岩本三千代&天然デンネンズによる懐かしい昭和歌謡でスタート。友の会40年を共に歩んだ江戸会長の主催者挨拶に続き、来賓挨拶として、友の会のたまり場訪問を継続している田端理事長、堺市自治会連合協議会様、大阪民医連共同組織委員会委員長からご挨拶を頂きました。メイン企画は、長野県

## 聴診器

プリツカー賞(建築界のノーベル賞)を今年3月受賞した建築家山本理研さんが10月、大阪で講演した。

「このまま開催でいいの?大阪関西万博」、建築家の目から見た万博の問題点を伝えにきたのだ。パビリオンは万博の目玉である。各国は設計に力を入れるから建物を万博協会が提供するタイプXは失礼だ。夢洲の地盤がとて緩く建築デザインは個性が出しにくい。▼リングの材木は国内で調達予定だったが量が少なく、伐採後の植林の目処も立たずフィンランドから輸入している。伝統工法である貫工法(ぬきこ(うほう)で木を組む)が金属のボルトや板を用いている。建設費350億円の妥当性も不明、解体後は資材不足の被災地へ送るべき▼テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」のいのちが万博から賭博カジノにどうつながるのか、役員に医療関係者がいない、建築や医療、教育の専門家は会場の安全性に口を出さないのか。数々の指摘があった。プリツカー賞受賞理由は建物の設計とコミュニケーションの融合である。理念、テーマに市民の意見が反映され、参加し交流するのが万博の意義であり、その先賭博カジノが目的ではないはずがない。山本さんの講演メッセージは「一旦立ち止まれ」だ。(和)